

フィンランドの医療福祉政策について

フィンランドとその高齢者介護の歴史

木村 正裕 フィンランド大使館商務部
上席商務官

フィンランドの高齢者福祉の特徴は、「自立した生活」と「予防的介護」、「シームレス介護」というキーワードによって表すことができる。

フィンランドでは1980年代後半から在宅ケアの整備が進み、この高齢者の自立生活を実現するための方策として考えられたのが、高齢者の健康状態をなるべく長く良好な状態に保つための「予防介護」と「シームレス介護」である。同時に、生活支援機器・技術による高齢者の生活のサポートも検討されるようになった。

これを日本の従来の介護方法と比較すると、その違いははっきりする。たとえば、日本においては、歩行が困難になった高齢者には、杖や車椅子、介護用ベッドを使用し、介護職員が介護を行う。

フィンランドの場合は、まず最初に、自立歩行をなるべく長く保つにはどうしたらよいかに焦点が向けられる。そのため高齢者に対する足のケア、歩行指導などの「予防介護」の技術が発達し、高齢者が自宅での独立した生活を営む可能性を広げている。歩行能力のみならず、身体機能全般にわたって、それぞれの高齢者の進行する不自由度に対応する予防的介護のメニュー、自宅での生活から施設生活にいたる段階的な介護メニューの移行などの「シームレス介護」のノウハウの蓄積が「自立した生活」を支えているのである。

日本においても、施設介護の効果的運用の難しさが徐々に認識されている。このような状況を鑑みると、フィンランド型介護のノウハウが日本の高齢化社会の問題改善に寄与できる可能性があることがわかる。ただし、一つ一つのノウハウや製品、介護技術はそれぞれ密接な関連性を持って機能しているので、これらを総合的に実践、導入する必要性が生じてくる。そこで、そのような総合的実践の場として、現在、「フィンランド健康福祉センター」が仙台市において運用され、新潟県阿賀野市、愛媛県西条市で構想、準備されている。